

四日市大学 学報

第74号

- 本学の地域連携の一例 ●
- ～企業との「ラボレーションによる商品開発～



四日市大学学長補佐
総合政策学部教授
鶴田 利恵



今日の大学は、大学が有する知識や技術、そして教職員はもとより学生を含む人材の資源を活用して、自治体や企業との連携によって地域課題の解決や地域の活性化に貢献する役割を担っています。

四日市大学には総合政策学部（公共政策・人文社会・経営戦略の3専攻）と環境情報学部（環境科学・メディア情報の2専攻）がありますが、両学部とも「地域が学びの場」を合言葉に、企業や行政、他大学、NPO法人などとの様々な地域連携活動に携わっています。

その一つの成果として、総合政策学部の学生が商品開発に携わり、10月25日の大学祭で正式販売となつた「紀伊のじやばらシロップ」完成までのプロセスをご紹介します。

この企画は、2024年春からスタートしたもので、レディオキューブFM三重×紀北町×卯卯ふわあ～む（本社が紀北町にある企業）とのコラボによるものです。FM三重の情報番組である「ほっと紀北町」

リラックスタイルムに「纪北町の恵み」を紹介する中で、紀北町の特産品である「じやばら」の存在を知り、是非ともこれを日本だけでなく世界にも広めたいとの思いを強く持つようになりました。

そこで、まずはマーケティングが専門の教授の指導を受けて経営学の基礎を学びながら、ターゲット層や価格帯を絞り込みつつ、「じやばら」を使ったスイーツや冷凍食品などいくつかのアイテムを考案していました。そして関係者に対し数回のプレゼンを行った結果、最終的に「紀伊のじやばらシロップ」を商品化することで決定しました。さらにその後もこのシロップを使った大学内での試飲会を開催したり、容器の素材やラベルのデザイン、販売促進の方法などについてディスカッションを重ねたりしながら完成させていきました。

過日の大学祭では、来場者に「じやばらシロップ」を使つた温かい飲み物の試飲をおこなつたところ、予想以上の好評をいただき、当初用意していた本数では間に合はず、急遽店舗より追加を取り寄せ販売することになりました。

さらに現在も、この「じやばらシロップ」を使つた飲料や料理のレシピも継続的に考案し、学生たちが配信しているSNSに紀

が今年15周年をむかえるにあたり、紀北町の名産物を使って、若者の視点で何か商品を開発できないかということで、本学にお声かけをいただきました。

学生たちは、実際に紀北町にフィールドワークに出かけて紀北町の特産品を調べて、いかううちに柑橘類である「じやばら」の存在を知り、是非ともこれを日本だけでなく世界にも広めたいとの思いを強く持つようになりました。

そこで、まずはマーケティングが専門の教授の指導を受けて経営学の基礎を学びながら、ターゲット層や価格帯を絞り込みつつ、「じやばら」を使ったスイーツや冷凍食品などいくつかのアイテムを考案していました。そして関係者に対し数回のプレゼンを行つた結果、最終的に「紀伊のじやばらシロップ」を商品化することで決定しました。さらにその後もこのシロップを使った大学内での試飲会を開催したり、容器の素材やラベルのデザイン、販売促進の方法などについてディスカッショントを重ねたりしながら完成させていきました。

この他にも、四日市大学では様々な地域連携活動を行つています。創立の経緯から四日市市との連携は特に強く、「四日市JAZZフェスティバル」、「市議会モニター」、「選挙啓発活動」、「大四日市まつり」などに学生が継続的に関わっています。さらに、毎年クリスマスシーズンに実施され子供達にも人気のある「三岐鉄道北勢線サンタ列車」、NPO法人の方の講師による「竹林整備実習」、三重大学との「伊勢湾海洋実習」など、枚挙にいとまがないと言つても過言ではありません。また、「名張市の人口減少を緩和するための施策の研究」や「伊勢湾や英虞湾などのマイクロプラスチックや水質に関する研究」など本学の教員が地域の自治体や企業などと連携して行つているプロジェクトも多数あります、地域への貢献度を高めてきました。

地域課題の解決や活性化に向けて、四日市大学の地域連携活動は今後も歩みを止めるとはありません。

リレー隨筆 NEVER TOO LATE

いくつになつても遅すぎることはない

私が学生時代に所属していた研究室のキヤツチフレーズは、「NEVER TOO LATE」というフレーズは、モットーです。高齢者を対象とした運動による健康づくりに関する研究に身を置いて、25年が経過しました。これまで20000人を超える高齢者の方に協力いただきました。たくさんの研究成果が得られました。こうした研究の成果や高齢者の健康づくりに関して、四日市市民大学で講演する機会をいただきました。特に、高齢者の健康づくりにおいて、最新のトピックである認知機能と健康増進に関して講演した際、私自身があらためて気づいたことがあります。その学びをここで共有したいと思います。脳は加齢とともに萎縮し、認知機能が低下するといわれますが、脳には可塑性があり、使い方次第で柔軟に変化することがわかつています。特に、脳は「心の在り方」や「日ごろの言葉づかい」によって影響を受けるとされます。たとえば、「前向きな言葉を口にする」、「自身を否定しない」、こうした心持ちでいる姿勢を常に持つている人は、脳の働きが活発であるといわれます。反対に、「どうせ自分には無理」、「もう歳だからできない」とした発言が習慣化している人は、脳機能が思考をやめてしまいます。こうした心の持ち方が、加齢による脳機能の低下よりも大きく影響を受けるとされるのです。このように、脳を鍛えるためには、常に脳機能を積極的に使用し、フル回転させることができます。様々な身体機能を高めるトレーニングと同様に、積極的に頑張ることと休息も大切とされるのです。運動をする、本を読む、計算などの課題を解く、新しいことに挑戦するといった適度な刺激は脳への栄養

Tをすに講たて

ですが、脳には可塑性があり、使い方次第で柔軟に変化することがわかっています。特に、脳は「心の在り方」や「日ごろの言葉づかい」によって影響を受けるとされます。たとえば、「前向きな言葉を口にする」「自身を否定しない」、こうした気持ちでいる姿勢を常に持つている人は、脳の働きが活発であるといわれます。反対に、「どうせ自分には無理」、「もう歳だからできない」とした発言が習慣化している人は、脳機能が思考をやめてし

れまで、2000人を越える高齢者の方に協力いただきました。こうした研究の成果や高齢者の健康づくりに関して、四日市市民大学で講演する機会をいただきました。特に、高齢者の健康づくりにおいて、最新のトピックである認知機能と健康増進に関して講演した際、私自身があらためて気づいたことがあります。その学びをここで共有したいと思います。

“NEVER TOO LATE”というフレーズは、私が学生時代に所属していた研究室のキャッチフレーズであり、今でも研究のみならず人生の支えとなつていてモットーです。高齢者を対象とした運動による健康づくりに関する研究に身を置いて、25年が経過しました。こ

となり、神経細胞同士のつながりが新生され、新たな神経ネットワークの構築となります。それと同時に深呼吸や瞑想などをして心と身体を緩める、何も考えない時間を作るなどの休養は、その神経ネットワークのつながりを整理する時間になるというのです。

さらに、脳の健康には、”人とのつながり”が欠かせません。仲間をつくる、人と会話する、笑うといった行動は、脳にとって非常に良質な刺激です。

運動を通した健康新維持増進は、継続的におこなうこと
が重要とみられています。実際、運動の継続率において、
仲間同士でおこなうことが継続につながることも報告さ
れています。こうした仲間同士でおこなう運動の実践は
運動による身体機能の向上だけでなく、人とのつながりが

や新たな仲間づくりのきっかけにもなり、心にも良い影響を与える機会になります。現在、研究活動の社会還元として、高齢者グループの運動サークルを支援していますが、その中でも新しい人とのつながりが生まれています。とかく現代において、人とのつながりを作りにくいうえに、社会になつていますが、グループでの運動実践が身体の健康と脳、心の健康につながる機会になることをさらに期待しています。

(知)の拠点であり続けるために、今後もこうした講演や交流の機会を大切にしていきたいと思います。私自身もチャレンジを続けます。NEVER TOO LATE!!



令和6年度 大学機関別認証評価の結果

7年毎に文部科学大臣が認証する評価機関の評価を受けることが義務付けられています。本学は、令和6年度に公益財団法人 日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受審いたしました。その結果、本学の教育研究活動、組織運営、施設設備など、大学の総合的な状況が、同機構の定める大学評価基準に「適合」していると正式に認定されました。この認定は、本学が社会に求められる大学として、教育の質保証と改善に継続的に取り組んでいることが、客観的な評価機関によつて認められたことを示すものです。評価結果の詳細につきましては、四日市大学および、公益財団法人日本高等教育評価機構のホームページで公表されています。



左 黒田先生 右 壱岡学長



左 壱岡学長 右 桶口先生

令和6年度前期・後期「Good Practice賞」表彰式

名譽教授称号授与式

岩崎 祐子 先生

四日市大学では、本学に長年在籍し、教育・研究などの学術面での業績、また社会や地域への貢献、学内の要職を務められるなど、本学において顕著な功績を挙げられた教員に対して名譽教授の称号を授与しています。

このたび、岩崎祐子先生に名譽教授の称号が授与されました。

岩崎先生は、国際経済・国際金融をご専門とされ、1999年に旧経済学部に着任されて以降、「金融論」「国際協力研修」などの科目を担当されました。三重県や四日市市の企業との連携授業の企画・実施を通じて、地域に根ざした実践的な教育を推進されるとともに、本学における产学連携の発展に大きく寄与されました。

また、研究面では、タイなどのアジア圏に進出す企業と協働しながら、災害時の事業継続施策としての地域型BGMに関する研究を進められており、地域社会と国際社会をつなぐ視点をもつて教育・研究の両面で本学に多大な貢献をされました。

客員教授就任

千葉 賢 先生

千葉賢先生が客員教授に就任されました。

千葉先生はスーパーコンピューターを用いる計算流体力学という分野で研究経歴を積まれ、環境情報学部設立の1997年に本学に就任されました。その後、コンピュータシミュレーションを活用した沿岸海域の水質や流動の研究を進め、三重県と共同でもありました。その経験から、「海洋学」「海洋調査法」などの環境分野の科目とともに、情報分野の科目も幅広く担当され、本学の教育・研究活動に大きく貢献されました。

2025年 日本留学AWARDS 上位入賞!

「日本留学AWARDS」は、一般財団法人日本語教育振興協会が主催する「日本語学校教育研究大会(専門委員会)」が、多くの日本留学を志す外国人留学生の環境整備に貢献することを目的に2012年に創設された賞です。全国の日本語学校教職員が留学生に勧めたい進学先として、大学文科系・理工系、大学院など部門ごとに東西地域の上位校が選出されます。

去る7月11日、2025年の表彰式がオンラインで開催され、本学は西日本地区私立大学文科系部門において上位入賞を果たしました。2013年から10回上位ノミネートされ、2015年・2016年・2017年は3年連続で大賞を受賞している名譽ある賞です。

今後も、この名譽ある賞を頂いたことに慢心せず、留学生目線に立った指導、支援を続けていけるよう、教職員一同、努力していきたいと思います。

本懇談会は、父母等の皆様と直接お会いできる貴重な機会として、今後も継続してまいります。

続く第2部では、教職員との個別面談が行われ、学生の学修状況や進路について、ゼミ担当教員やキャリアサポートセンター職員等と熱心な質疑応答や意見交換が交わされました。

第1部では、株式会社名大社より講師を招き、就職講座を実施しました。就職活動の現状や企業が求める人物像のほか、Z世代の特徴を踏まえた関わり方について分かりやすく解説が行われ、学生の将来を考え上で有意義な機会となりました。

令和7年10月4日、四日市大学において喜岡学長をはじめとした教職員と父母等の皆様が参加し、教育後援会「父母等懇談会」を開催しました。

令和7年度 四日市大学教育後援会「父母等懇談会」の開催

西日本地区 私立大学 文科系部門受賞校

West



四日市大学
Yokkaichi University

NISHINKYO

日本留学AWARDS

令和7年度

四日市大学教育後援会役員

役職名	氏名
会長	西村 一成
副会長	新見 権一
書記	高橋 潤
会計	打田晋太郎
監査	間瀬 慎一
監査	服部 美帆
幹事	出口 将人
幹事	名倉 佳孝
幹事	加藤 里枝
幹事	中溝 聰
幹事	坂本 尚樹
幹事	新井 英之



▲全体会の様子

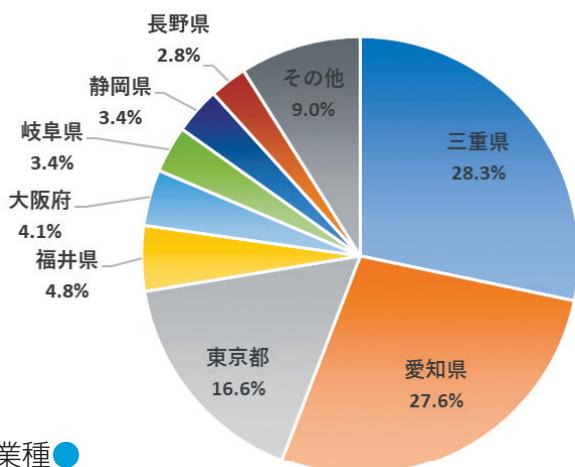


▲個別面談の様子

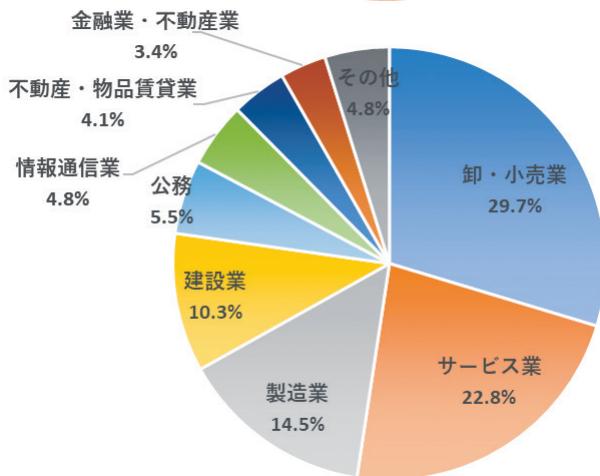
2024年度就職状況

キャリアサポートセンター

●本社所在地●



●業種●



2024年度も引き続き高い就職率(98.6%)を保つことができました。文部科学省公表の大卒就職率98.0%、三重労働局公表の県内大卒就職率96.4%を上回り、本学の就職率の高さが窺えます。

これは学生が真剣に将来のキャリアを考え努力した結果といえます。

また、学生の活発な就職活動に呼応して、本学教職員が、きめ細かなサポートを続けていることも、このような好結果につながっており、2025年度の内定率についても前年同時期とほぼ同じ割合で推移しています。

学生優位の「売り手市場」で人材獲得競争が過熱する中、就活ルールは形骸化している状態です。「早期化」「長期化」状況下で就職活動を頑張る学生のために、キャリアサポートセンターでは引き続き「一人ひとりに寄り添ったサポート」を続けていきます。

■主な就職先(2024年度)■

(株)インファーマシーズ / オルビス(株) / (株)バローホールディングス / 中部薬品(株) / マックスバリュ東海(株) / ユニー(株) / (株)マルヤス / ネットツヨタノヴェル三重(株) / (株)ホンダカーズ三重 / (株)日立ビルシステム / エヌエス環境(株) / アプロト(株) / フルハシEPO(株) / 鈴鹿農業協同組合 / みえなか農業協同組合 / リゾートトラスト(株) / コスモ石油(株) / クリナップ(株) / 日産自動車(株) / エイベックス(株) / 井村屋グループ(株) / 松阪興産(株) / 東プレ東海(株) / (株)オーテック / ニッカホーム(株) / 長野市消防局 / 桑名市消防本部 / 岐阜県警察本部 / 松阪市役所 / 蟹江町役場 / (株)ZTV / (株)ビーネックスソリューションズ / (株)レオパレス21 / (株)プレサンスコーポレーション / (株)アクティオ / 桑名三重信用金庫 / 北伊勢上野信用金庫 / センコー(株) / (株)日本陸送



▲特待生認定授与式



座談会の様子

■2025年度特待生認定者■

学部	学年	氏名
総合政策学部	3年	藤川聖菜
	3年	井伊千陽
	2年	岡副美羽
環境情報学部	3年	深平龍生
	2年	石川裕治郎
	2年	河江弘聖

特待生は、前年度の年間GPAが3.5以上、かつ38単位以上修得の学生を対象（すでに本学の学費減免を受けている学生は対象外）として選出しています。今年度も6名の学生が特待生として認定されました。授与式後には、学長・副学長と特待生が直接意見を交わす座談会を実施しました。座談会は、学生が学長と直接話せる数少ない機会ということで、学内の改善点や要望についても活発な意見交換が行われました。学長からは、寄せられた要望に対し改善に向けた取り組みを進めていくとのお話をありました。

9月16日、四日市大学特待生認定証の授与式と特待生と学長・副学長との座談会を開催しました。

特待生認定証授与式と座談会

■ 訃報 ■

元経済学部教授・留学生支援センター長
西牧 義江 名誉教授 令和7年11月13日逝去



西牧 義江 名誉教授が、享年87歳でご逝去されました。西牧名誉教授は、平成5年に本学経済学部経済学科助教授として着任され、平成11年より教授として教育・研究に従事されました。また、平成15年より留学生支援

室長を併任され、平成17年からは留学生支援センター長として、本学の留学生教育体制の基盤整備にご尽力されました。

多年にわたり、留学生の学修・生活支援や受入体制の充実、さらに海外からの学生募集など幅広い活動を先導され、本学における国際交流・国際教育の礎を築かれました。

ここに、生前の多大なるご貢献に深く感謝申し上げるとともに、故人のご冥福を心よりお祈りいたします。



▲ ナンバー1作品を選ぶ来場者

た結果、最優秀賞には、安藤将斗さん（環境情報学部3年）、優秀賞には、落合海吏さん（総合政策学部4年）、井原颯空さん（環境情報学部2年）の2名に決定しました。

今日は初めての企画でしたが、多くの方にお越しいただき、「どの作品も図書館の魅力を存分に引き出し、訪れたくなりますね」「部屋に飾つておきたいと思いました」「一つだけ選び難い」「部屋に入ったとき、一目見て惹かれました!!」など、とても多くのコメントもいただきました。

なお、表彰式は11月12日にラーニングコモンズで開催し、図書館長の加納光先生から3名に表彰されました。

四日市大学情報センターでは、図書館利用促進企画として、10月25日「図書館ビジュアルアートコンテスト2025」を大学祭の企画として開催しました。

写真部門は、四日市大学の図書館の建物が写っているか、大学図書館内で撮影したことがわかる写真。ポスター部門は、四日市大学名が記載されているA3サイズ、デジタルで作成されたものが応募条件の中、両部門あわせて合計18作品のエントリーがありました。

「図書館ビジュアルアートコンテスト2025」の開催

四日市大学スタジオ（7号館）にて公開講座を開催

社会連携活動報告

名張商工会議所・名張市との 共同プロジェクト

四日市大学では、名張市役所や名張商工会議所と協力して、同市の人口減少対策を考える共同研究プロジェクトを進めています。現実には人口減少を食い止めるることは困難ですが、その影響を少しでも和らげて持続可能な地域のあり方を探ることがこのプロジェクトの目的です。

三重県名張市は1970年代から関西圏のヘッドタウンとして栄えてきましたが、2000年以降は人口減少が続いてきました。この状況を憂えた名張商工会議所から本学に連携の呼びかけがあり、まずは2024年度に学内の特定プロジェクト研究という形をとつて、総合政策学部の教員を中心とするチームで研究に取りかかりました。そして2025年から名張商工会議所に「人口減少対策特別委員会」が設けられ、正式に共同研究がスタートしています。

「お仕事についてよくわかりました」「実際の（撮影）機材を使いながら説明してもらつたのでわかりやすかつた」など感想が寄せられました。

本学の環境情報学部メディア情報専攻では、放送・ディアや情報通信業界への就職を希望する学生がこのフタジオで学んでいます。これからも本学は地域に開かれた大学として、自治体、企業、各種団体など各界の皆様のご協力をいただきながら、地域の未来を担う若者の人才培养や社会貢献活動を推進していきます。



▲ [View All Products](#) | [View All Categories](#)

課題解決の方法を学ぶ総合政策学部にとって、今回のプロジェクトはまさに総合政策を実践する機会だといえるでしょう。教員は各自の専門的見地を生かして地域の課題に実証的なアプローチをふまえた助言を行い、学生は本物の課題に触れて、生きた学びの機会を得ることができます。このプロジェクトは名張市民の皆さまの生活向上に資する成果を産むことを目指すものですが、同時にまた、本学のような地方大学の政策系学部がもつ意義を改めて確認するものとなるはずです。

先輩なんでも相談室がスタート

本学では今年度より、学生がピア（同等）の立場で気軽に悩みを相談できる場として「先輩なんでも相談室」を開設しました。学生生活をより円滑に過ごせるよう支援することを目的としています。

相談員には、両学部から推薦された2～4年生8名が就任し、6月から毎週木曜日の昼休みにラーニングコモンズで3名ずつが担当し相談に応じています。相談員は性別や出身、所属、活動分野など多様な背景を持つ学生で構成されており、幅広い視点から話を聞くことができます。

開設前には学生相談室のカウンセラーによる研修が複数回実施され、傾聴姿勢や守秘義務、助言方法などについて学び、相談を受けるための準備を整えました。なお、学生相談室ではカウンセラー（臨床心理士）による個別相談を毎週水曜日に予約制で実施しており、専門的な支援を受けたい学生にも対応できる体制が整っています。

現在、来訪者はごくわずかですが、履修登録や試験、一人暮らし、アルバイトなどについての不安や悩みがある学生が、気軽に立ち寄れる場所として、少しずつ認知が広がってくれたらうれしいところです。今後は利用状況に応じて曜日や時間の調整も検討し、より利用しやすい形を目指します。

この相談室は学長の強い後押しのもとで始まった取り組みであり、大学全体でその成功を支えています。相談員同士も活動を通して学び合い、傾聴力や共感力を高めながら成長しています。今後、より多くの学生が気軽に訪れ、悩みを深刻化させる前に安心して相談でできる場所として発展していくことが期待されます。

先輩なんでも相談室

四日市大学生のみなさん
どなたでも気軽にお入りください

本日の相談員

	2年	3年	4年
総合政策学部	○	○	○
環境情報学部	○	○	○
	2年	3年	4年



▲ウミガメのはく製



▲ウミガメ体験

ウミガメの生態とその保護について

環境情報学部の講義「地域連携環境講義」では、地域の環境問題に関する研究者や専門家を学外から招き、学生が現実に起きている課題を直接学ぶ機会としています。今年も、プラスチックごみ、林業、藤原干渴、食品ロス、環境教育、里山暮らしと音楽、農業、企業の環境対策、廃棄物問題、地球温暖化対策、漁業など、多様なテーマの講義を実施しました。

その一つとして、5月20日に「ウミガメネットワーク三重」をお招きし、「ウミガメの生態とその保護」をテーマに講義が行われました。代表の米川様による講義では、ウミガメの産卵行動を身体全体を使って表現する場面があり、学生たちはそのユニークな説明に引き込まれていました。

講義の後半には、ウミガメの卵や子ガメ、体内組織、甲羅、骨格など、貴重な展示物が紹介され、学生たちは実際に触れながら観察することができました。特に、アカウミガメの甲羅を背負い、その重さを体験する企画では、「海から上陸し、産卵する大変さを実感した」という声が聞かれました。

学生たちは楽しみながら学びを深め、身近な生態系保全や地域環境への理解をより具体的に考える時間となつたようです。

（総合政策学部 浅井雅特任准教授）



特色のある授業

鳥出神社の鯨船行事を通じた地域連携教育

総合政策学部では、15年以上にわたり地域連携を行ってきたユネスコ無形文化遺産「鳥出神社の鯨船行事」が、今年から9月開催となつたことを受け、新たに「総合政策特別講義b」を開講し、9月27日・28日に受講生が同事に参加しました。今年度は、中島組神徳丸の皆様のご協力のもと、鯨を撃ち取るまでを再現する勇壮な練りに、地域の方々とともに2日間参加し、疲労を感じながらも、四日市の伝統文化のみならず、地域課題について学ぶ貴重な機会となりました。さらに、11月16日には、祭り参加を通して生まれた疑問を地域の方々に直接問い合わせる座談会を実施し、人口減少や高齢化が進む中で、地域社会や祭りをいかに継続していくかについて、考えました。

総合政策学部では、15年以上にわたり地域連携を行ってきたユネスコ無形文化遺産「鳥出神社の鯨船行事」が、今年から9月開催となつたことを受け、新たに「総合政策特別講義b」を開講し、9月27日・28日に受講生が同事に参加しました。今年度は、中島組神徳丸の皆様のご協力のもと、鯨を撃ち取るまでを再現する勇壮な練りに、地域の方々とともに2日間参加し、疲労を感じながらも、四日市の伝統文化のみならず、地域課題について学ぶ貴重な機会となりました。さらに、11月16日には、祭り参加を通して生まれた疑問を地域の方々に直接問い合わせる座談会を実施し、人口減少や高齢化が進む中で、地域社会や祭りをいかに継続していくかについて、考えました。

（総合政策学部 浅井雅特任准教授）

四大祭

2025

10月25日、大学祭が開催されました。今年のテーマは「PRIME」。「これまで一番盛り上がる大学祭にしよう」という思いが込められています。

屋外では、とんてき焼きそばや留学生による郷土料理の模擬店、3台のキッチンカーなどが並び、終日多くの来場者でにぎわいました。総合政策学部の学生とレディオキューブFM三重、卵卵ふわあくむ、紀北町と連携して共同開発した「じやばらシロップ」も販売され、学生たちは熱心に商品の魅力を伝えていました。

食堂ではカードゲーム教室やルーレットを使ったテーブルゲームが人気を集め、情報センターでは「ビジュアルアートコンテスト」が開催され、学生の写真やポスター作品を多くの来場者が熱心に鑑賞していました。

さらに、学部の研究発表や文化クラブの展示、事務職員や同窓会による出展などもあり、地域との交流が深まりました。3号館では四日市市出身の芸人・ザブングル加藤さんと森智広市長によるトークショーが行われ、会場は笑いに包まれました。スタジオでは音響・照明・映像ゼミの演出による軽音ライブが開催され、10組以上のバンドが熱演。締めくくりのbingo大会まで盛況で、学生・教職員・卒業生・地域が一体となつて笑顔あふれる一日となりました。

ご協力くださった皆さま、ありがとうございました。

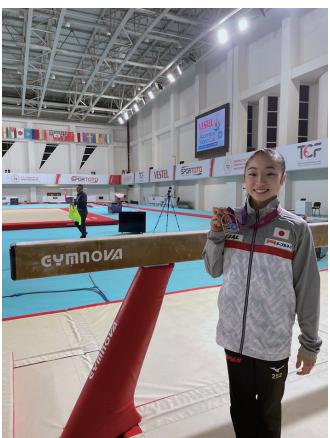


△ 学友会



△ 留学生

7月4日、本学はその偉業を称え喜岡学長から報奨金の授与、そして、8月に開催されるワールドユニバーシティゲームズ（ドイツ）と10月に開催される世界選手権（インドネシア）に向けた壮行会を行いました。壮行会には、本学1年生が全員出席しており、「まなちゃん頑張れ」という多くの声援に包まれました。



テニス 室井卓海さん・長谷川大豪さん全日本学生テニス選手権出場

2025年8月21日から31日まで、四日市テニスセンターで全日本学生テニス選手権が開催され、本学から室井卓海さん（環境情報学部4年）と長谷川大豪さん（総合政策学部2年）が出場しました。室井さんは2年ぶり2回目の出場、長谷川さんは2年連続2回目の出場となります。結果は次のとおりです。

●男子シングルス本戦

1ラウンド	長谷川	6-0	6-2	新城（徳島大学）
2ラウンド	長谷川	4-6	6-7	田中（筑波大学）

●男子ダブルス予選

1ラウンド	室井・長谷川	2-6	6-7	溝瀬・若松（松山大学）
-------	--------	-----	-----	-------------

【テニス部 長谷川監督のコメント】

今回、全国大会出場にあたり喜岡学長から報奨金を授与していただき心から感謝申し上げます。また、地元四日市で開催されたという事もあり、多くの先生方や選手のご家族、OB・OGが応援に駆けつけてください、本当にありがとうございました。大学をはじめ皆さんに応援いただいたおかげでこのような結果を残すことができました。来年は、さらにパワーアップして良い報告ができるよう頑張りますので、今後も応援よろしくお願ひします。



△ 報奨金授与式

体操 岡村真さんの新技「オカムラ」が認定

まだ記憶に新しい昨年パリオリンピック2024に体操女子団体選手として出場し、見事8位に入賞した、総合政策学部2年生（当時1年生）の岡村さんは、今年3月、トルコで開催した種目別ワールドカップ（W杯）で成功させた段違い平行棒の新技が「オカムラ」と命名されました。

国際体操連盟（FIG）は主要国際大会で世界初成功した技に選手の名前をつけており、降り技の「大逆手後ろ振り半ひねり後方屈伸2回宙返り降り」がD難度の新技として認定を受けたものです。

7月4日、本学はその偉業を称え喜岡学長から報奨金の授与、そして、

